

## 課題

テキスト 230 頁終わりから 2 行～232 頁 5 行を、できれば薬局距離制限事件と比較しながら、400 字程度でまとめて提出ください。

## レポート

入浴関連の営業にも営業免許に距離制限がもうけられている。しかしながら、ここで注意しなければならないことはこうした規制を支える社会的事実が時の経過とともに変化してきているということである。当初、国民は浴場を利用することが多かったが、次第に内風呂が普及し、浴場利用者が現象し、その経営は困難になってきた。こうした状況のもとに、新規参入を制限する距離制限を維持できるのかが改めて裁判で争われた。

最二判平成元年一月二〇日刑集四三卷一号一頁は、経営の厳しくなった既存の浴場を維持すると法律の積極目的を重視し、緩やかな審査基準のもとに合憲判決を下した。

公衆浴場は、住民の日常生活において欠くことのできない公共施設であり、その維持、確保を目的としているものであるから、本件においても合憲であるとしている。

薬局距離制限事件でも同じく公共の福祉という観点では同じであるが、本件は既存業者の保護が重点なのに対し薬局距離制限事件では新規事業者参入によって品質等の問題から住民の不利益を防止するためのものであった。